

CULTURE OF GROWTH

— D X とは、人が育つ文化のこと。

松原グループ
松原建設株式会社
工事部 課長 飛島 栄寛

富山県立 志貴野高等学校
令和5年卒 岡本 樹來

富山県立 富山工業高等学校
令和8年卒 萩中 春成

富山県立 富山工業高等学校
令和7年卒 馬場 翔大

富山県立 富山工業高等学校
令和7年卒 大松 奏斗

石川県立 金沢辰巳丘高等学校
平成30年卒 桑原 卓耶

山梨県立 身延高等学校
令和4年卒 山田 流海

松原グループ
松原建設株式会社
取締役執行役員
工事部長 北河 楨

私立 不二越工業高等学校
令和4年卒 藤井 翔太



富山県立 富山工業高等学校
令和6年卒 赤尾 匠輝

私立 金沢工業大学
平成29年卒 井元 堅介

富山県立 富山工業高等学校
令和8年卒 老月 千絢

松原グループ
松原建設株式会社
代表取締役社長
松原 悠大

富山県立 富山工業高等学校
令和4年卒 福島 愛叶

富山県立 砺波高等学校
令和3年卒 栗原 優紀
※社内制度で金沢大学に在職進学

富山県立 富山工業高等学校
令和6年卒 中村 和偉

富山県立 富山西高等学校
令和7年卒 浅賀 蓮



松原建設
MATSUBARA CONSTRUCTION CO., LTD.

現場での顔

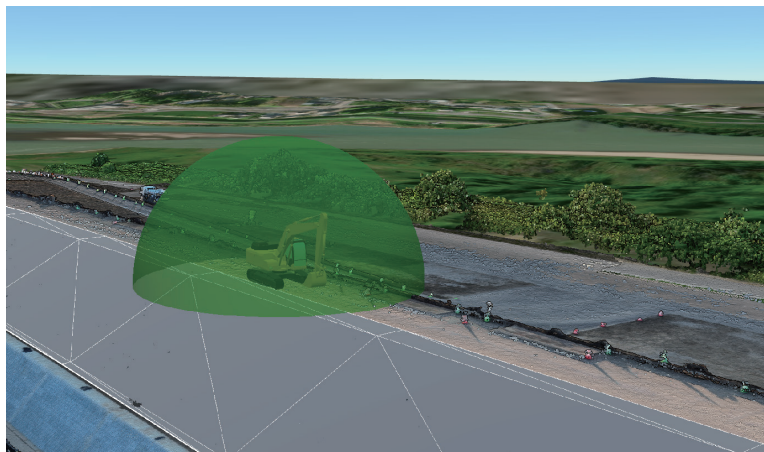
ON SITE



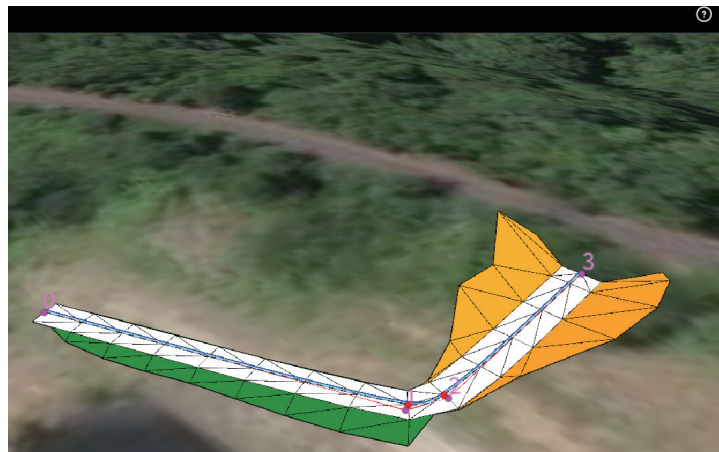
赤尾さん（富山工業高校卒）自身が入社のきっかけになった農林水産省の工事で、現在は現場代理人として活躍しています！



大松さん（富山工業高校卒）に教える指導役の藤井さん（不二越工業卒）。自分でデータをつくって二人ともこれから ICT 建機の訓練です。



山中さん（富山工業高校卒）がつくった三次元シミュレーションにより得られた情報から最も効率のよい施工を計画しています。



福島さん（富山工業高校卒）がつくった災害地の復旧計画。現地の三次元データにより得られた情報から仮設道路を計画しています。



いくら ICT が進んでも、測量はしっかりやります。指導役の先輩から離れて山中さん（富山工業高校卒）が確認のためのレベル測量。重要です。



土量計算をするためドローンを飛ばす野替さん（富山工業高校卒）。このデータを採取するのが ICT 施工の第一歩となります。



こちらレベル測量、先輩にスタッフを持ってもらい間違いがないか確認しながら測量中の福島愛望さん（富山工業高校卒）。

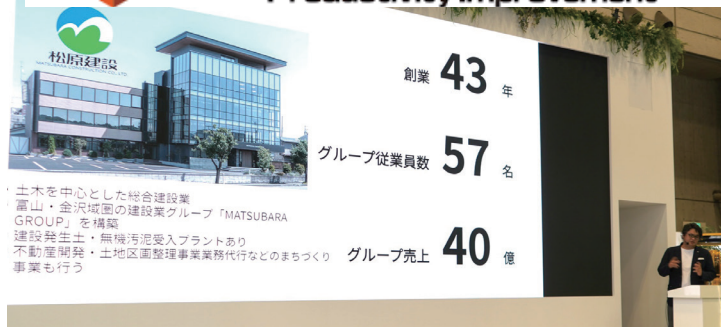


現場事務所で工事を支える葉佐さん（新潟工科大学卒）。書類作成や各種調整の精度が、現場の安心につながります。

CSPI 2026

第8回 国際建設・測量展

International Construction & Survey Productivity Improvement



毎年5万7000人の来場者がある日本最大の建設系展示会で社長が登壇。講演テーマは『DXとは、デジタルで人材育成の文化をつくること』。

BEYOND SITE

毎年幕張メッセで開催される CSPI 2026へ視察へ。グループ内アンダー30で視察研修。福島さん（富山工業高校卒）は社長と共に会場最大規模であったKOMATSU ブースで登壇。施工管理に興味がある若手、現場の作業そのものに興味のある若手でグループを組み最先端技術の展示を視察。



社長と共に登壇し、ICT 施工に携わって何が変わったかを説明する福島愛叶さん（富山工業高校卒）。来場者、関係者からとてもよい評価を得ました。



新型遠隔バックホウの操縦体験をする大松さん。（富山工業高校卒）



10歳以上年の離れた井元さん（金沢工業大学卒）の解説を受けながら、施工管理アプリの企業ブースを回る新人の萩中さん。

現場の外の顔

OFF SITE



自然と対峙する職場です。楽しみながら自然を学ぶため、会社で社内倶楽部「ストーンスロープマリクラブ」があります。会社所有のボートで釣りをしたり、泳いだり。年2～3回出航しています。釣り好きの山中さん（富山工業高校卒）は次世代の倶楽部キャプテン候補です。その他にもゴルフを趣味とする若手が増えています。



不定期ではありますが、社員研修旅行を開催。ここ3年は毎年沖縄・九州方面に行って、役職、年齢、性別問わないコミュニケーションの下地をつくっています。

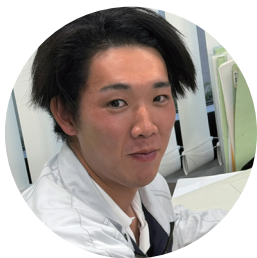


10 YEARS

入社から、一人で現場を持つまで。
MATSUBARA CONSTRUCTION — CAREER TIMELINE



先輩たちの声



山梨県立 身延高等学校
令和4年卒 山田 流海 先輩

●入社前に不安だったこと
普通科の出身で、土木の知識はゼロからのスタートでした。基礎的な部分から不安がありましたが、今はICTという技術から土木施工の知識を深め、業務につなげられています。

●できてうれしかったこと
ICTのドローン測量、施工3Dデータの作成をしています。自分が作った3Dデータをもとに施工が進み、現場が形になっていく過程を見られたときは、とても嬉しかったです。

●先輩・上司に支えられたと感じた場面
測量業務や現場の安全管理を、基礎知識から教えていただきました。ICT技術も、どんな場面でも活用するかを教わり、自分の作ったデータが実際に施工で使われたとき、成長を支えられたと感じました。

●母校の後輩・先生へ一言
土木は何もわからない、という不安はあると思います。でも今は、デジタルやAIといった技術が活用され、土木の知識がなくても活躍できます。入社後に、デジタル・AI技術から建設の知識をたくさん学べます。少しでも興味を持ってもらえたら嬉しいです。



私立 不二越工業高等学校
令和4年卒 藤井 翔太 先輩

●入社前に不安だったこと
機械科の出身で、土木の仕事が何もわからないこと、人間関係をうまくつくれるか不安でした。5年目の今は、仕事の内容も理解し、測量機械も使いこなして任されています。人間関係も、メリハリをつけて誰とでも落ち着いて関われるようになりました。

●できてうれしかったこと
今は現場測量や工事写真、安全書類を任されています。施工場所に位置を出し、それをもとに工事が進み、出来上がっていく物を見たとき、やりがいを感じてうれしかったです。

●先輩・上司に支えられたと感じた場面
わからないことをすぐ相談できる環境をつくってくれたおかげで、安心して業務に取り組みました。

●母校の後輩・先生へ一言
土木科の出身でなくても、問題なく仕事を覚えられ、やりがいを感じられます。災害復旧工事や災害防止工事など、地域に貢献でき、とても面白い仕事です。



富山県立 富山工業高等学校
令和6年卒 赤尾 匠輝 先輩

●入社前に不安だったこと
いろいろな年齢層の方々とうまくコミュニケーションを取りながら仕事ができるか、とても不安でした。しかし、会社の皆さんがフレンドリーに話してくださるので、今は楽しく仕事できています。

●できてうれしかったこと
現場で使うデータの作成、安全書類の作成、現場管理を主に行っています。自分が実際に作ったデータが、現場で形になっていく様子を見たとき、達成感があって嬉しかったです。

●先輩・上司に支えられたと感じた場面
仕事やプライベートで悩んでいたとき、顔色を見て気にかけてくださったことが、心の支えになりました。

●母校の後輩・先生へ一言
自分で考えて作ったものが形になり、地図に残っていく——ほかの業種にはない仕事なので、やりがいを強く感じられます。若手社員が多く、先輩や上司も優しい方ばかりで、気兼ねなく話せる環境です。

楽な仕事ではありません。だから、本気で育てます。

過去5年間で20名を採用し、17名が在籍。

—地域〈まち〉に根ざし、人を育て、長く働き続けられる会社であること—

自家製 (この冊子は社内で編集しています。)

© MATSUBARA CONSTRUCTION Co., Ltd.